

武道授業

実践の概要紹介

香川県丸亀市における 武道授業（柔道）の実践紹介

本市は、香川県の海岸線側ほぼ中央に位置し、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園、南は讃岐山脈に連なる山々、陸地部は讃岐平野の一部で、平坦な田園地帯が広がり、瀬戸内海には本島、広島、小手島などの島々が点在している。人口は約11万人と県内では第2の都市であり、中讃地域の核として重要な役割を担っている。

また、市内には、陸地部5校、島しょ部1校、計6校の市立中学校があり、全運動部が参加する「丸亀市中学生運動部活動対抗駅伝競走大会」が、毎年1月に開催されるなど、市をあげて体力の向上や責任感・連帯感の涵養に努めている。



高さ日本一の石垣に鎮座して400年の歴史を刻む「丸亀城」

丸亀市教育委員会
学校教育課

○研究内容

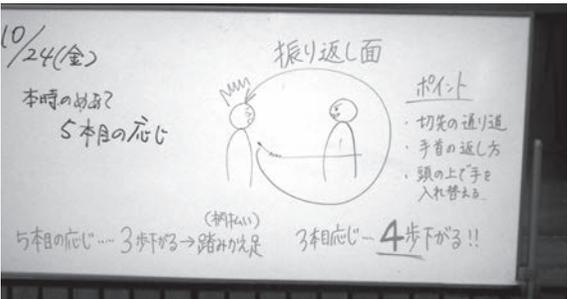
【講演の様子】
近隣の高校の先生より、なぎなた紹介の様子



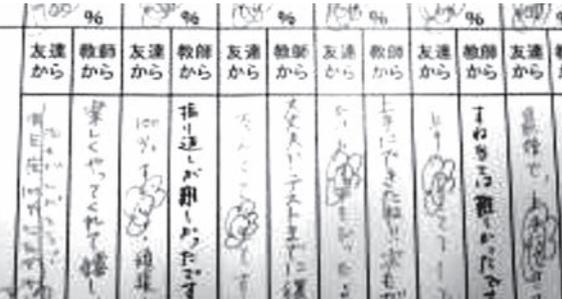
【すね打ち】
新しい技を学んでいる様子



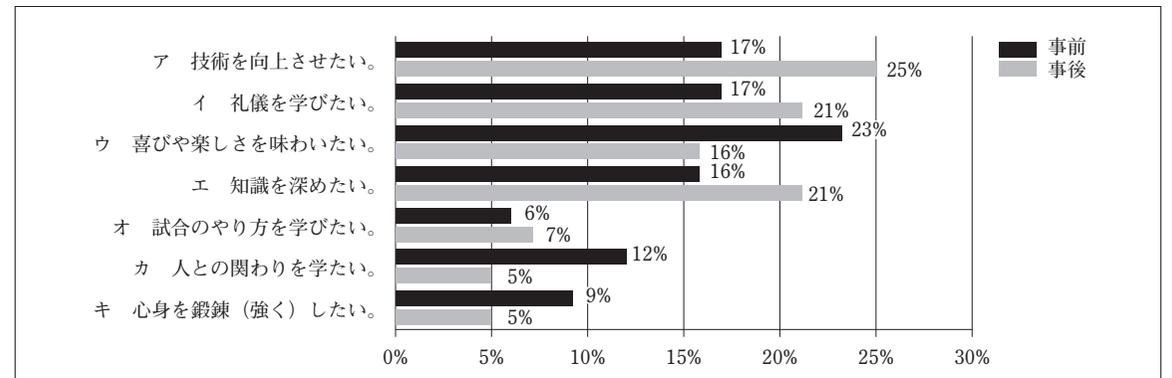
【学習資料】
ポイントを書き出した資料



【学習ノート】
個人ノートの工夫



【武道に対するアンケート結果】「なぎなたを学習する上での自分の目標について」
単元を始める前と終わった時の生徒の変容を知るために授業前と授業後にアンケートを実施した。



【本単元を終えて】
今後の取り組みの方向性と内容

今年は、昨年学んだ基本の技を生かして新しい技を習得した。終盤は基本技を中心に、防具を着用してしかけや応じを行った。防具のすね当てをつけて、実際に攻防をし合うことで、試合に対する意欲と意識を高めることをねらいとした。電子黒板やタブレットを使用してお互いの動きを確認するなど、学び合いを通してコミュニケーション能力を高めた。また、ノートには友達からのコメントを入れることで相互評価を行った。今後授業を行うには、技術指導者の確保と、防具の準備が必要になる。男女共習も視野に入れて検討する。

1 はじめに

本市では、「丸亀市中学校教育研究会」を年4回開催している。本研究会には、公立中学校の全教職員が参加して、研究授業等各教科別の研究を行い、指導力の向上と情報の共有に努めている。

平成27年度の保健体育部会では、授業において、「学び合う場」をつくることを意識した授業づくりを心がけ、子どもたちの主体性を引き出し、仲間と協力して目標を達成できる喜びを感じさせること

2 研究の方向性

平成27年度の総合教育研究会会場である南中学校では、「主体的に学び、考える生徒の育成」という研究主題のもと、わかる授業

とが、生徒の学習意欲につながるのではないかと考えた。

そこで、仲間と助け合いながら練習を重ね、できるようになる体験こそ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成につながる

と仮定し、柔道を題材として「生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方（学び合い学習を通して、仲間とともに楽しく活動し、高め合う体育学習）」という研究テーマを設定した。

の向上を図るために、生徒指導の三機能「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」を意識した学習指導の工夫を取り入れ、「主体的対話的な学び」の実現を目指すこととした。

特に、武道においては、対人技術習得の過程において、相手を必要とする運動特性があることから、まずは仲間とともに楽しく学ぶ環境を作ることが重要であると

考えた。さらに、中学校で初めて武道を学ぶ生徒がほとんどであることから、基礎・基本の習得や安全面に配慮し、恐怖心や痛みへの抵抗感を解消することで、武道の楽しさを味わい、意欲的に学習に取り組めるようにする必要があると考えた。

そこで、次の2点を中心に、柔道における授業内容の研究と授業改善に取り組んだ。

(1) 学び合いの場づくり
仲間の動きを観察し、お互いに助言し合う学び合いの場を設定する。



受け身一斉練習示範

3 実践内容

研究授業における対象生徒は2年生男子で、実態として以下の3点が挙げられた。

○積極的に運動に取り組もうとする生徒が多く、どの実技種目でも意欲的に学習に取り組んでいる。

○受け身と関連のあるマット運動



3人組での練習の様子

については、第1学年で学習経験があり、基本的な接転技群の技は既習事項であるが、基本的な技能が定着しておらず、前転や後転などがきちんとできていない生徒の割合は高い。

○柔道については第1学年で固め技を中心に既習しているが、投げ技に対しての不安を感じている生徒もいる。

そこで、生徒の実態と研究の方向性から、当日は次のことに重点をおいて実践を行った。なお、学習指導過程および年間指導計画は、次頁別紙のとおりである。

(1) 学び合いの場づくり
① 運動時間の確保と、学び合いの時間とのバランスを考慮し、グループ活動の人数を3人とした。
② 小内刈りの技能習得の中で、3

4 成果と課題

人組での学び合いの場面を設定し、互いに観察し助言し合えるような場面づくりをした。

(2) 安全面の配慮
① 安全に受け身ができることを評価の対象とし、投げることも受け身に重点をおいた指導をした。
② 前回り受け身の習得が困難であ

る生徒に対しては、横回り受け身の指導を行い、頭を畳につけないということ徹底して指導した。

③ 3人組での役割分担に観察・助言役を設け、技のアドバイスだけでなく周囲の状況も意識させることで、安全面で配慮できるようにした。

(2) 安全面への配慮
① 技の習得では低い姿勢から高い姿勢へ、遅いスピードから速いスピードへと段階的な技術練習を設定する。また、安全な受け身ができるように反復練習を行い、全員が受け身を習得してから技の練習を開始する。
② グループ活動では、審判や助言だけでなく周囲の状況に目を向けさせ、生徒がお互いに安全に配慮して活動できるようにする。

授業後の研究討議および指導講習では、成果（○印）と今後の課題（●印）として、次のような意見が出された。

○ 3人組を作ることにより、互いにポイントを確認したり、アドバイスをしたりする学び合いの場づくりと個々の課題の明確化が図られていた。

○ グループ活動を行うことで、常に誰かが周りに目を配り、十分な広さのない場所でも安全に技

の習得ができていた。

○ 互いに技のポイントを確認し、助言し合うことが、自身のフィードバックの場をもつきっかけとなっており、学習意欲の向上につながっていた。

○ 1つの技能に多様な練習方法があり、生徒が意欲的に取り組める活動が多かった。

○ 技の習得順も指導要領に沿って安全に実施できる内容であり、全員が受け身をきちんと身につ



教師による示範

○作法の指導が徹底されており、専門用語や動作も生徒に浸透していた。

●生徒にとって、技がうまくできているかどうかの判断が難しく、アドバイスの言葉に迷っている様子もみられた。

●ICT機器を活用したり、掲示資料を有効に活用したりして技のポイントを提示し、積極的にアドバイスをできるような環境づくりをすると、さらに学習が

深化する。

とよかった。

●3人組のグループを作る際に、人数が足りないグループがあった。2人組では、アドバイスを安全確保が行いにくいいため、場に応じたグループ編成ができる

●生徒が主体となって学習する時間を増やすため、グループでの学習時間をさらに多くしたほうがよい。

5 おわりに

本実践で生徒と一緒に授業を受けた新規採用教員からは、「ポイントを押さえた簡潔明瞭な指導により、生徒にしっかりと考えさせることができている、主体的な学習が行われていた。自身の指導力向上の必要性を痛感した」との感想が述べられた。この言葉を借りるまでもなく、授業改善のためには教員の指導力向上が不可欠である。

本稿では、平成27年度の実践を紹介したが、「丸亀市中学校教育研究会」では平成20年度以降、剣道、合気道、なぎなたについても

次期学習指導要領改訂に向けた、「学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」では、「グローバル化する社会の中で、我が国固有の伝統と文化へ

武道授業に関する研究と実践を行っている。また、県教育委員会の「武道等指導充実・資質支援事業」を活用して外部指導者を招へいし、外部指導者の効果的な活用方法や、教員の資質向上についても研究を進めてきた。



新規採用教員が生徒と一緒に授業を受ける

の理解を深める観点から、日本固有の武道の考え方に触れることができるよう、内容等について一層の改善を図る」と、武道に関する教育内容の改善・充実の方向性が示されている。市教育委員会としても、研修の機会の確保や最新の情報を提供・共有するなど学校現場との連携を深め、今後も武道指導の充実に努めていきたい。

学習指導過程

学習活動	教師の支援活動
1 整列・黙想、座礼	<ul style="list-style-type: none"> 柔道着を正しく着用できているか、お互いに確認させる。 着座の仕方、礼法を正しく行っているか確認する。
2 準備運動をする。	<ul style="list-style-type: none"> けが予防のために準備運動を十分行うように指導する。
3 本時の学習内容の確認をする。	
正しく小内刈りをかけ、安全に受け身ができるようにしよう	
4 受け身の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 後ろ受け身(通常+対面) 横受け身(通常+一斉) 2人組で1人が四つん這いになり、もう1人が相手の袖と足を持った姿勢から真上に引き上げ、横受け身の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 受け身が安全にできていない生徒には適切に助言し、課題に気づかせる。【決定・存在】 相手を真上に引き上げる際、握った手を離さないことを意識させる。
5 小内刈りの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 1人で体さばき、刈り方の練習をする。 3人組をつくり、2人が練習、1人が助言役を交代で行う。 受が右足を前に出し、取りがかがんだ姿勢から刈り倒す練習をする。 受の右足を徐々に開き、最後に刈り倒す練習をする。 受に右足を前に出してもらい、つま先方向に刈る練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に小内刈りを示範し、技のイメージをつかませるとともに、助言役のヒントとなるような技の要点を解説する。 助言役がヒントをもとに積極的にアドバイスできるように声をかける。【決定・存在】 アドバイスを生かした練習ができているグループを称賛する。【決定・存在・共感】 受の安全確保のため、取は倒しても引き手を離さないことを徹底させる。 観察・助言役は安全に配慮し、隣のペアと間隔をとって練習することを意識させる。 心を落ち着かせ、本時の学習を振り返らせる。
6 本時のまとめと反省 <ul style="list-style-type: none"> 整列、黙想、座礼 	

○評価：仲間と協力して、正しい小内刈りをかけ、安全に受け身をする事ができたか。

平成27年度 丸亀市立南中学校 保健体育 年間指導計画

学期	1学期													2学期							3学期													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	男子	体育理論③			保健③			器械運動⑫			水泳⑨			球技1⑫ ネット型			陸上競技⑫			保健⑥			武道⑩			ダンス⑩			球技2⑬ ゴール型					
	女子	体育理論③			保健③			陸上競技⑫			水泳⑨			器械運動⑫			球技1⑫ ネット型			保健⑥			ダンス⑩			武道⑩			球技2⑬ ゴール型					
2年	男子	体育理論③			保健⑤			陸上競技⑩			水泳⑨			球技3⑫ ベースボール型			器械運動⑩			武道⑨			ダンス⑨			球技2⑬ ゴール型								
	女子	体育理論③			保健⑤			器械運動⑩			水泳⑨			陸上競技⑩			球技3⑫ ベースボール型			ダンス⑨			武道⑨			球技2⑬ ゴール型								
3年	必修	体育理論③			保健⑤			選択Ⅰ⑩ 陸上競技・ダンス			選択Ⅱ⑨ 水泳 器械運動			選択Ⅲ⑬ 球技1・球技3			選択Ⅳ⑭ 球技2・球技3			選択Ⅴ⑬ 球技1・武道			選択Ⅵ⑬ 球技2・武道											